

1. 概要

日程：平成23年4月4日から5日

経緯

1) 主催：夢ワカメワークショップ

2) 夢ワカメを中心に緊急支援物資の収集と輸送を実施。

物資・運搬関係は、(株)横浜建築styleの和智氏を中心に構成。

夢ワカメの木村氏よりJOYFへ支援要請があり、物資提供、荷物仕分、運搬について活動に参加。大島は、震災当初より、旧知の県庁職員と連絡取り合っていたこと、今後の復興計画を見据え、現地の状況の把握も行う必要があることから、全行程に参加した。

主なスケジュール

4月2日、3日 緊急支援物資の仕分けと再梱包

日用品、娯楽品、医薬品等被災地での仕分け作業を軽減するため、品目別に仕分け作業を行った。参加ボランティアは、海辺研中心に60名。緊急支援物資は、10tを越える量。

3日夜、横浜出発。

4月4日

現地到着

釜石湾漁協、市役所に緊急支援物資を配布。

市内の現状視察。

夜、サケ孵化場にて宿泊、前川参事と懇談。県庁鈴木氏と再会、意見交換。

4月5日

現地出発。

2. 被害状況

広範囲

東北道が福島からずっと凸凹。施設の崩壊も多数見受けられた。

都内も含め、地震による影響範囲はたいへん広い。

地震災害

建物が倒壊するといった事例は、釜石市及び市に至る地域において確認できなかった。

他の情報から、北茨城市等茨城県内の方が、地震の被害は大きかった様な印象がある。

津波災害

ある地理的な地区までは、ライフラインも復旧し、ほぼ正常化しているが、津波災害を受けた海辺の低地部では、ほぼ全ての建物が崩壊している。釜石の事例では、釜石駅周辺まで津波の溯上があったが、その周辺から海側の地区は全滅し、市内におけるコントラストが凄い。

全てを崩壊する津波のエネルギーの大きさに圧倒される。

漁業者の話では、テレビの映像でも確認できる通り、強烈な引き波、見たことの無いような水の壁が押し寄せたとのこと。溯上した線からみても、建物の4階までというところもあり、大変な津波であったことがわかる。

防災意識の高い地域においても、「まさか」の大津波で、早めに高台逃避していれば、助かった方もいたとのこと。車に乗るなど、周囲の状況が分からない方々に逃げ遅れた方が多い様である。意識のある三陸でもこの様な状況であり、他の地域での意識向上は必須。

人心

言葉には出ないが、未だ、恐怖、将来への不安等で厳しい心境と察せられる。緊迫感が漂っている。早急なケアが必要と感じられる。

津波直後、遺体が散乱していたとすることで、多くの方がショックを受け、特に子供への影響が懸念される。また、リーダー的な方々が復旧段階で過労で消耗されると復興に支障がでる恐れがあり、強制的に休ませる様なことも必要かもしれない。

どこかの段階で、復興計画を話し合い、将来を構築していく作業をしていくことも必要。

3. 気付いた点等

緊急支援物資の運搬関係

今回の活動についてみれば、全般的には、阪神大震災以降の様々な災害対応の経験から、ボランティアの動き、物資の内容等、非常にスムーズであったとの印象。NPO関係の連携もスムーズであったと感じている。

ただし、緊急支援物資の大半を集めた、和久氏によると、当初、行政に物資提供を申し出たが受取りを拒否される、物資を仕分ける場所の確保等、多くのご苦労があったとのこと。行政側は、備蓄物資を提供していることや、市民からの様々な物資を受け取ると後始末に困ることもあり、受け取りを拒否する様である。システムが整備されているので、市民レベルの参加の道を閉ざしている面もある様と感じられた。

被災地で必要とされる物資は、刻々と変わるので、現地とのコミュニケーションが必要。今回でいえば、基礎的食料、衣類、飲料水は現地では確保されていた。

今後に向けては、タバコ等嗜好品、生産再開に向けた事務機、工具等別の物資が求められている状況であった。

道路、港湾等公共施設関係

- ・国土交通省の災害対応は非常に迅速との印象を各所で受けた。
 - ・東北自動車道：福島が最もひどいが、各所で凸凹で、施設もところどころ壊れており、地震が広域的に強いものであったことを実感した。しかし、既に開通し、物資が遅れる状況となっており、復旧の速さを感じさせた。
 - ・港湾：釜石港は、各所で崩壊。港内にも堆積物が多く、機能回復は時間がかかりそうな印象。500トンの商船が岸壁に乗り上げており、衝撃的。港湾事務所は1階が流されたものの、建物は残り、電気の通らないなか、被害の把握、復旧の対応を行っている。職員の安否確認、現地の建設会社の段取り、災害査定、浚渫までスピード感のある対応が行われている。
- ・水産基盤、漁村
 - ・1種漁港があるが、どこも、外郭施設、岸壁、背後の施設とも被害が甚大。放置しておく、高潮等で再度被害を受ける様な状況。地盤が相当下がっているとの印象。
 - ・小さな谷間の集落では、一番上の住宅直前まで津波が押し寄せ、その下は全壊。しばらく孤立化していた地区も多くみられたとのこと。高所の移転先の確保の難しい集落が多い。
 - ・海の状況がまだ分からない。流出物だけでなく、相当、地形の変化もあった感じ。砂浜も消滅している。
 - ・前面の砂浜の消滅で背後の護岸は危機的状況。吸出し等で早晚崩壊する可能性を感じる。

漁業

・漁協の動き

(生産)

釜石湾漁協では、定置網の漁船が残り、これを基礎として、漁業再開の方策を考えている。基本的には、組合主導で、収益を全体で分かち合う形での生産を構想。漁船が不足する中、組合所有で生産者の輪番で生産活動を行うイメージを持っているとのこと。

(組合経営)

釜石湾漁協は、当面、釜石駅を借りて活動。

湾漁協の組合員の犠牲は、他所と比較して少ないとのことであるが、周辺の釜石東部、大槌漁協は組合員の多くが犠牲になった。

今後の組合経営もたいへん厳しいものと感じられた。

- ・ 漁業者の継続意向

若い世代では、継続意向が強いと推察される。

小漁船や漁具が手に入るのなら、活用したい意向があるとのこと。

湾漁協（岩手県内はほぼ同様と考えられる）としては、秋期のサケ定置網、11月にウニ漁を再開の1つのメドと考えている。

- ・ 水産加工業

三陸の水産加工技術は高く、技術の喪失と流出が懸念される。

釜石でも、倉庫の在庫品が全てダメになった。損害保険等で補填はされると考えられるが、原材料の供給、中国人の工員の確保等操業再開までのメドは立たない状況ではないか。

その他産業

- ・ 商店街

釜石では、全壊。但し、現時点では、市域の津波の被害を受けなかった地区では、量販店等は再開しており、買い物に不自由という状況ではなくなっている。

もともと厳しかった商店街の振興につき、さらに厳しい状況となっている。中心市街地の活性化が可能かどうか。

- ・ 観光

港湾の崩壊、砂浜の消滅で回復に長期間かかる見込み。

NPOや漁協、漁師のネットワーク等で、養殖場や海岸清掃のお手伝いといった形で徐々に回復を図る形の可能性があると考えられる。釜石でいえば、遠野、東和方面はあまり問題がないので、宿泊地は確保でき、生産の再開に消費者を参加させていく方向なら、活路はあると思う。

（文責：大島）

4. 現地写真

緊急支援物資仕分け、運搬



ボランティアによる仕分け
使えないものも入っているが、
思ったよりしっかりした品物と感じた。



漁師sからの物資
伊江漁協のほかにも漁師sからも
物資を預かった。



運搬方法
4tトラック1台、2tトラック2台。小
ほかに、バンが1台。



漁協に荷物を下ろす
事前から連絡取り合っている方に
いま必要な物資を届ける。刻々と
必要な物資が変わっていく。



収集場に荷物を下ろす。
ルールが明確化されており、混
乱はみられない。現地ボランティア
に疲れがみえたが。



収集場内部

現地の状況



津波被害のない地区
量販店は、平常営業中。



損害保険
他社も対応中。



駅周辺地区
コンビニ営業中



駅周辺地区
ボランティア情報集約



駅周辺地区
対策本部



駅周辺地区
物産館営業中



釜石湾漁協仮事務所
釜石駅の2階を借りている。



損害保険
他社も対応中。



駅周辺地区
コンビニ営業中



商店街
中心市街地は全壊。
(津波被災地区)



商店街



警察署も被災。片付け中。



鉄道の橋脚部。
津波の方向に曲がっている。



埋没した道路側溝



橋梁に流出物が堆積。



港湾内



港湾内
岸壁崩壊。水門は維持。



港湾内



港湾内
地盤が下がった形跡



港湾内
地盤が下がった形跡



4階建の小学校。



跡形もない集落



跡形もない集落



避難所



集落の高台は無事



生産施設全壊



根浜海岸
前面の砂浜は消滅。
護岸も危険。



根浜海岸
背後地区



根浜海岸
宿泊施設。しばらく、避難所として開放。孤立していたとのこと。



崩壊した高潮堤



崩壊した高潮堤



漁港背後集落



漁港背後集落



漁港背後集落
ある高さまで被害を受ける。



漁港背後集落
高潮堤を超えて。